

2010 - 2011

ヘルスケア関連団体

ネットワーキングの会について



ヘルスケア関連団体ネットワーキングの会
www.vho-net.org

< 目次 >

1 . はじめに	1
2 . ヘルスケア関連団体ネットワーキングの会 (VHO-net) とは	2
3 . ワークショップ	4
4 . 地域学習会	7
5 . 各種プロジェクトとその他の活動	14
6 . ヘルスケア関連団体ネットワーキングの会 (VHO-net) 活動指針	15
7 . ヘルスケア関連団体ネットワーキングの会 (VHO-net) 会則	16
8 . 会員登録について	19
9 . 地域学習会運営要項	20
10 . 用語解説	21
11 . VHO-net 組織・運営について	25

はじめに

この小冊子は、ヘルスケア関連団体ネットワークの会（以下、VHO-net）の活動をより多くの方に理解していただき、各地域で、また全国規模で、ネットワークを広げ、より良い保健・医療・福祉を目指していくことを目的として、2006年より2年に1度、発行させていただいております。

これまで、患者団体、障がい者団体、家族団体、支援団体などが、それぞれの立場で活動をしてきました。同じ疾病や同じ障がいがある人同士、または都道府県単位、もしくは市や町などの中での活動、あるいは一医療機関の中での情報交換や疾患啓発、行政への要望など、さまざまかと思えます。

しかしながら、現在の保健・医療・福祉を取り巻く環境は非常に複雑であり、医療制度改革をはじめとして関連する制度も大きく変わりつつあります。また、医師などの医療関係者と患者の関係もパートナーリズム（医師など患者以外の人によって意思決定されること）からパートナーシップへと変化しつつあります。

VHO-netが発足して、疾病や障がいが違って共にも協力し、共通の課題については徐々にではありますが、共に議論する場ができました。それによって、医療者とのより良い関係を考える機会となったり、また、団体運営のノウハウについても、お互いに情報交換をすることができ、団体の活動がより効率的になったところもあります。近い将来においては、医師、看護師などの医療関係者、そして行政などとの協働により、さまざまな課題について議論し、それを反映させていくことも重要であると考えております。

このVHO-netの活動をより多くの方に理解いただき、保健・医療・福祉の質の向上をめざして、共に考えていきたいと思っております。

2010年3月31日
VHO-net世話人一同

ヘルスケア関連団体ネットワークの会（VHO-net）とは

VHO-netは、疾病や障がいの違い、立場の違いを越えて、ヘルスケア関連団体（患者団体、障がい者団体、その他ヘルスケアに関係する団体）のリーダーたちがつながっていくことを目指して、2001年にスタートしました。小さな団体も歴史のある大きな団体も分け隔てなく、互いの知恵を交換し、横につながりながら、共に取り組むことができたらと思ったのです。

はじめは、年に1回のワークショップに集まり、話し合うところからスタートし、その記録を積み上げながら、これまで9回のワークショップを開催しました。当初は、さまざまな思いを抱えて活動しているリーダーたちが元気になることを目指していましたが、最近では、団体の中で体験したこと、蓄積した知識を相互学習する場として、励まし合い、認め合い、協力できる関係を作り、共通の具体的なテーマで話し合いが進むようになってきました。人と人とのつながりを大切にして、仲間の輪が広がっています。

その中で、もっと身近なところで集まり、同様の活動をしたいという声があがり、地域学習会が発足しました。現在は、関西、東北、九州、関東、北海道、沖縄、北陸、東海の8ヶ所で地域学習会が開催されています。各地では参加する人たちの関心や地域の課題に合わせてテーマを決め、学習を進めて、成果をあげています。

また、ウェブサイトを活用して、情報提供・共有するのもこのVHO-netの取り組みの一つです。遠隔地のため日常的には会えない方々が、ウェブサイトを通じて情報を共有するのも一つのつながり方だと考えています。また、国内だけではなく、海外の状況も学びながら考えるのも、このVHO-netの特徴の一つです。

医学教育に患者の声を反映させていくこと、医療関係者との関係をどのように構築していくのか、正しい情報の収集や提供について、医師や関係者にも加わっていただき

ながら一緒に話し合いを行っています。その成果として、『患者と作る医学の教科書』をVHO-netとして出版することもできました。こうしたVHO-netの活動への賛同者も徐々に増え、地域学習会やワークショップの参加者は年々多彩になっています。

このVHO-netでは、一人ひとりが責任をもって参加し、創り合うために、必要なとき以外、会の代表を特に定めないので特徴です。

ワークショップ

このワークショップでは、ヘルスケア関連団体のリーダーが集まり、課題を共に考えます。受身ではなく全員参加型の会であり、グループワークを主軸として、毎回テーマを決めて話し合います。ヘルスケア関連団体のリーダーと医師などをはじめとする医療関係者が、同じ目線で共通する悩みや問題を話し合い、互いに解決策を考えたり、体験や情報の共有と、人と人とのつながりを通して、エンパワメントできる場を目指しています。

第1回ワークショップ (2001年)

「活動に駆り立てるもの・越えるもの」～出会いを中心に～

第2回ワークショップ (2002年)

「ひとりの気づきは みんなの気づき」

～会の運営・後継者育成、資金調達、PR活動など～

第3回ワークショップ (2003年)

「自分づくり、ひとづくり」～人材育成を中心に～

第4回ワークショップ (2004年)

「未来に向けて、充実と広がり」～今、あなたにできること～

第5回ワークショップ (2005年)

「つなぐ」～医療関係者とのより良い関係～

第6回ワークショップ (2006年)

「患者力」～医師とのパートナーシップ～

第7回ワークショップ (2007年)

「情報活用術」～収集と提供の方法を考える～

第8回ワークショップ (2008年)

「つたえる」～正確な情報を伝えたい人たちに～

第9回ワークショップ (2009年)

「つづける」～chance・challenge・change～

第1回ワークショップ 2001年10月27日(土)～10月28日(日)

テーマは、「活動に駆り立てるもの、越えるもの」。

日頃、課題を持つことが多い各団体のリーダーが、楽しく、そして癒されることが大切と考え開催いたしました。活動内容に違いがある団体のリーダーが「個」に戻り、グループワークによって悩みを共有することで、孤立しやすいリーダーが横のつながりを持つ第一歩となりました。

また、グループごとに名前を決めた際、その一つのグループ名であった「まねきねこ」を、このワークショップのキャラクターといたしました。

第2回ワークショップ 2002年10月26日(土)～10月27日(日)

テーマは、「ひとりの気づきはみんなの気づき」。

分科会では、「役員のチームワーク」、「後継者育成」、「活動資金の確保と運用」、「会報・ホームページを含んだ団体のPR活動」など、実際の活動に役立てて行くことができるような7つのテーマに分かれて、分科会と全体討議を実施し、課題を共有し解決への糸口を見つけたり、今後お互いに考えていくことを確認し合いました。

第3回ワークショップ 2003年10月25日(土)～10月26日(日)

第3回のテーマは、「自分づくり、ひとづくり」。

各団体のリーダーの方々が、どのように取り組んでいるかを話し合い、成功例や問題点を共有しました。単に人材育成に関わる問題だけではなく、会の運営や会の存続、ネットワークづくりに話が広がり、さまざまな視点から、現在の課題や将来の夢などについて、グループ発表されました。

第4回ワークショップ 2004年10月30日(土)～10月31日(日)

第4回のテーマは「未来に向けて、充実と広がり」。

具体的には、「これからのNPOの運営」、「ヘルスケア関連団体による医学教育へのかかわり」という2つの課題に沿って開催されました。特に、医学教育については参加

者の関心も高く、これを機に地域学習会でも積極的に勉強会が開催され、現在もその活動が続いております。

第5回ワークショップ 2005年10月29日(土)～10月30日(日)

テーマは、「つなぐ」～医療関係者とのより良い関係～。

聖マリアンナ医科大学 箕輪良行教授から地域医療の重要性、医者・患者の関係などについて講演をいただいた後、分科会を行いました。グループ発表では「医療者と患者の対等性」が不可欠であり、そのためには、ヘルスケア関連団体の向上と社会的背景の醸成が必要であることがあげられました。また、「双方のコミュニケーション不足」が原因となっていることもあり、その問題をどのように解決していけばよいのかが、今後の課題となりました。

第6回ワークショップ 2006年10月28日(土)～10月29日(日)

テーマを「患者力」～医師とのパートナーシップ～として、初めて医師の方々に分科会にも参加いただき、団体の方々と共に、積極的に議論されました。

具体的なコミュニケーションツールとして、例えば、疾患別に、医師と患者の共通言語の本などを作成すべきとの意見が出されました。

第7回ワークショップ 2007年10月20日(土)～10月21日(日)

第6回のグループ発表を受けて、「患者力」をつけるためには、特に『情報の収集、発信、共有』が重要性であると認識され、第6回で議論された内容をさらに具体的にしていくために、第7回のテーマを「情報活用術」～収集と提供の方法を考える～としました。インターネットを中心に、いろいろな情報があふれていますが、その情報をどのように収集すべきか、またその情報は本当に正しい情報で、各団体でも活用できるものかなど、議論を深めました。

第8回ワークショップ 2008年10月25日(土)～10月26日(日)

テーマは「つたえる」～正確な情報を伝えたい人たちに～。

本当に伝えたい情報を、伝えたい人に、正しく伝えることができているか、ということと共に考えました。情報の発信には情報の収集力も大事であり、それはさまざまな人との協働や信頼関係も大きく関係するといった発表もありました。

第9回ワークショップ 2009年10月31日(土)～11月1日(日)

第9回のテーマは「つづける」～chance・challenge・change～。

各団体のこれまでの活動において、さまざまな場面で「変化を求められたこと」、「良い機会にめぐまれたこと」、「新しいことに挑戦したこと」など、リーダーは、どのように続けたらよいかを話しました。仕事を抱え込まない、個人が頑張りすぎない、楽しさも必要との意見がありました。また、結果よりもプロセスが大事であり、仲間と分かち合いながら、また後継者を育てて、「つなげていく」事が重要であると発表がされました。

■ 地域学習会

2001年より、毎年ヘルスケア関連団体ワークショップを開催してまいりましたが、第3回の開催時に、地域での活動の重要性を感じ、2004年1月、関西地区で初めて「地域交流会」が開催されました。

年に1回のワークショップでは参加者に限りがあること、障がいや疾病のため、東京で開催するワークショップには参加しにくいこと、さらには地域ごとに検討しなければならない課題があることから、各地域での情報交換なども強化するために、全国規模での活動と、各地域の活動を併せてネットワークしていく、という目的で地域学習会が広がっていきました。

会の目的にそって、その名称を「地域交流会」から「地域学習会」に変更いたしました。

現在までに、以下の地域学習会が発足し、開催されております。

関西学習会（2004年1月に第1回学習会を開催）

- 東北学習会（2004年9月に第1回学習会を開催）
- 九州学習会（2005年1月に第1回学習会を開催）
- 関東学習会（2006年4月に第1回学習会を開催）
- 北海道学習会（2006年7月に第1回学習会を開催）
- 沖縄学習会（2007年2月に第1回学習会を開催）
- 北陸学習会（2007年4月に第1回学習会を開催）
- 東海学習会（2007年12月に第1回学習会を開催）

各地域学習会の報告（以下、2010年3月現在）

● 北海道学習会

北海道学習会は、2006年7月に第1回目を開催し、少人数で学習会を開催してまいりました。しかし、2008年11月の第5回目からは、北海道難病連の協力を頂き、9団体15名の参加があり、「会の運営の何に困っているの？」と「つたえる」～正確な情報を伝えたい人たちに～の2つのテーマで開催しました。グループ・ディスカッションを中心に、それぞれの団体が抱えている資金面、運営面、スタッフ、後継者、会報などについて積極的に話し合い、また問題を共有化することができ、大変有意義な時間を過ごすことができた、参加者から感想がありました。

第6回は、前回の学習会の中で困っていることに基づいていた「広報活動」について取り組みました。その中でも「読みたい機関紙作り」をテーマとし、2日間、北海道全域から21団体60名が参加しました。北海道内でも自治体広報誌などを数多く手がけている総合印刷会社から講師を招き、「どうすれば読みやすい機関紙になるか」講演をいただき、その後、各グループに分かれて、実際にクリスマス・パーティーのちらしを作成しました。2日目には参加者が所属する団体の機関誌について発表があり、機関誌の名前の由来など興味深い話や、地域の特徴などの話があり、笑いあり、涙ありの大変楽しく、そして、あっという間の研修会でした。

今後も、各団体の問題解決に繋がるような学習会を開催していきます。

東北学習会

東北学習会では、各団体間や地域住民との連携、医療・健康問題、地域の社会環境や社会システムに貢献すること、活動の場を東北各地に広げる、という4つの目標をもとに活動しています。

この2年間、に関しては地域の障害者保健福祉計画等でメンバー数名が委員になり、その他のメンバーがモニタリングに積極的に参加し、そのような体験を学習会などで伝え、地域への提言の大切さを確認しています。としては医療関係者の講話を聴くことやワークショップをもとに「医療について」考え、疾病や障がいとの付き合い方に取り組んでいます。はとも関連するのですが、地震などの災害時の準備・行動について考えたり、防災訓練に参加したりという取り組みです。その結果、私たちの取り組みだけでは不十分で、地域住民の方々に、障がいや疾病についての理解を深めていただき、互いに支えあうことが大切であると認識されました。に関しては、これまでの開催地が宮城県内だけだったので、第14回東北学習会は福島市で開催しました。今年度も郡山市での開催が予定され、さらにネットワーキングの輪が広がると期待されます。

学習会以外でも団体間の連携が広がっています。健康維持のためには、医療や身体だけに気を配るだけでなく、社会の中で活動することが、生きがい、元気、健康につながることを学んできました。そこで、東北学習会では社会環境に関する提言等にも取り組んでいます。

● 関東学習会

関東学習会は2006年に活動を開始し、2010年1月に第16回の開催となりました。毎年、最初の学習会でその年の学習会の進め方について皆で議論しますが、その中で、他の団体の活動の内容をもっと知りたい、自分たちの活動・運営に役立つ情報が欲しい、ざっくばらんに情報交換したいという希望があり、活動紹介の時間と自由に話せる時間をつくるようになりました。その頃、「患者と作る医学の教科書」のプロジェクトが立ち上がりつつあり、活動紹介の部分は連動する形で進めていきまし

た。毎回の学習会で、1～2団体が、「教科書」の項目立てに沿って疾病・障がいと団体の活動について紹介し、質疑応答を通じて、わかりやすい原稿作りに役立ててもらいました。「患者と作る医学の教科書」は関東学習会の枠を超え、ネットワーキングの会全体のプロジェクトに発展し、出版後は大きな反響を呼んでいます。情報交換の時間としては、ワークショップの分科会の形式を参考にしながら、「今、団体運営で困っていること」を話し合ったり、年に1回の全国ワークショップのテーマである「つたえる」を使って模擬分科会を開いたりしました。2010年のテーマは「ピアサポート」となり、関東学習会では初めて、2日連続のワークショップを企画しています。

● 東海学習会

2007年末に、名古屋で第1回学習会の開催を契機に出発した東海学習会。

第1回目は、患者力の強化を縦軸に「患者会のあり方」、第2回は「患者会の情報発信」、第3回は「患者会の運営」、そして第4回は「患者会と協働」をテーマとして毎年勉強会を重ねてきました。2010年は、8月28日(土)-29日(日)に「災害問題と難病患者」をテーマに、第5回目の勉強会を愛知健康プラザでの開催を予定しています。東海学習会の特徴は、日本難病・疾病団体協議会(JPA)に加入している地域の患者団体が多く、それぞれの地域患者団体とVHO-netが連携して、リーダー研修(養成)などによる相乗効果を大事にしたり、参加するリーダーの切実な要望に基づきながら進めています。

学習会スタート時には運営委員は3名でしたが、今年から新たに一人増えて4人体制となり、多様化・切実化するヘルスケア関連団体の要望に応えたり、他地域の学習会への参加・研修も今後考えたいと思っています。

北陸学習会

北陸学習会が発足して丸3年になります。小さいながらも4ヶ月に1度の学習会を継続、年1回は「合宿」を行い、事前課題の提出からニュースの発行など、毎回テーマを深め

ています。この間、「患者会の役割」「患者力と医療」については寸劇を通して学びあい、その中から「元気ができる会運営に何が必要か」は3回シリーズで行い、合宿の折には(社)日本オストミー協会から講師を迎えました。学習会は「参加者が主体的に活動しながら、問題意識を高め、多くの人と積極的に交流することで、自身に新しい気づきを得る場」だと確認、2010年3月6日の第10回学習会では2010年度のテーマを「伝わる・つながる・広がるコツ!」とすることを決めました。講師はITコンサルタントの方です。

第1回は基礎編「立ち位置を確認しよう」(振り返りシートの作成)

第2回は7月の合宿で実技編「広報力を高めよう~チラシから機関誌まで~」
(パソコンを使って)

第3回は12月の応用編「ブログを作ってみよう~パソコンからケータイまで」
(ブログ等)

元気ができる会活動のためにしっかり力をつけて行こうと話合っています。

関西学習会

関西学習会では、患者の就労や全人的な成長なども視野に入れて、医学教育に「患者の声を医療に組み込む」ことをテーマに、第2回より模擬発表を行っております。

2008年8月に開催しました第12回学習会では、ブラダーウィリー症候群の「竹の子の会」から、パワーポイントを用いない模擬発表があり、参加者の視線が発表者に向き、却ってフェイスtoフェイスの関係ができ、理解が促進されるという意見もありました。

第13回の2009年1月には、日本マルファン協会から「知らないと怖いマルファンの常識」の発表がありました。図と絵の入った分かりやすいパワーポイントを使っての発表でした。一般に知られていない病気についての理解を促進するための工夫として、パワーポイントをうまく活用することも重要であるとの共通認識を得ました。

第14回は、2009年6月に講師を招いて宿泊研修を行いました。コミュニケーション・アサーション・プレゼンテーションについての研修でした。研修では、重要なのは上

手く話すことではなく、相手に理解してもらい、感じてもらい、行動を起こしてもらうことを学びました。次いで、寸劇による自己覚知とカタルシス効果を確認し、またロールプレイを通して、会活動における困難を共有し、解決方法を共に考える機会といたしました。

第15回は2009年12月に開催しました。

全国膠原病友の会より、話す対象を看護師に特定しての模擬発表がされました。視聴者の職種や一般市民か、他の専門職かによって、話す内容も異なることが明確になった発表でした。

第16回目は2010年3月に開催し、精神障害者「ありのままで今を生きる」の発表で辛い話は楽しく、難しい話は分かりやすく、暗い話しは明るく、ということをもっとに話され、本当に辛い話も大変、楽しく伺うことができました。見えない精神障害のしんどさを抱えつつ、どのように日々暮らしているかについて体験を話し、一般市民の理解を促されました。

関西学習会の全ての回で、各会の現状報告や今後の活動計画について情報交換し、つながりあい、力づけられる学習会でした。

● 九州学習会

「九州はひとつ」を合言葉に、明るく楽しいヘルスケア関連団体の活動を目指し、VHO-netとして何を提供したらいいのかを考えながら進めている学習会です。1つのテーマに絞るのではなく、毎回さまざまなテーマで開催しています。信頼される団体となるために、社会制度を知る学習として、「社会保険労務士から聞く、医療・年金」を行いました。知ると知らぬは大違い、しかし情報は待っていてもやっては来ない。情報を入れるアンテナを張っておくことの大切さを学びました。情報提供のための学習として「行列のできる講座とチラシの作り方」を行いました。先ずは企画ありきで、ターゲットを絞ることなど目からうろこの学習会でした。

また、毎年1回東京で開催されているヘルスケア関連団体ワークショップの終了後は、九州でも同じテーマで学習会を行っています。今年のテーマ「つづける～チャンス・

チャレンジ・チェンジ」は1泊学習会とし、事例発表の後に、グループワークを行いました。夜の研修も含めて明日の活力をいただいた学習会でした。

地域学習会と同時進行で「難病相談支援員教育研修プロジェクト」を立ち上げ、相談員の研修と、情報収集を行う場を作りました。毎回、臨床心理士に加わっていただき、相談者として必要な「カウンセリング」の基本を学び、事例検討を行っています。毎回「傾聴」の大切さを痛感しつつ、ピア・カウンセリングとカウンセリングの違いを感じています。

● 沖縄学習会

沖縄学習会では、その年、全国で行われたワークショップのテーマである「つたえる」～正確な情報を伝えたい人たちに～を地域へ持ち帰り、学習会を開催してきました。

2007年にVHO-net沖縄学習会が発足した当初は、学習会の意義や、患者やその団体を取り巻く環境・情報格差が、本土との間にあることすら判らずにいました。

第5回 「伝えたい人は誰？パート2」

(組織の運営に必要な人材とその確保)

第6回 「広報誌のレイアウトを学ぼう」

第7回 「つたえる」何を誰に、どうやって「つたえる」

第8回 「会を伝えるパート1」

第9回 「会を伝えるパート2」

第10回 「会を伝えるパート3」

(実際にパワーポイントを使って作成してみよう！)

第11回 「つづける」

第12回 「ピア・カウンセリングの基礎技術」

学習会を重ねるにつれ、沖縄県の置かれている状況を少しずつ把握できるようになり、また、「なんくるないさ～」「どうにかなるさ」といった他力だけではなく、自ら考え行

動する「何とかしなければ」という意識が芽生え、ヘルスケア関連団体の結束（ネットワーク）が強くなってきました。今後は、意識をどう行動へ結び付けて行くか？課題のひとつです。

患者と作る医学の教科書プロジェクト

患者だからこそ表現できることを客観的なものとして、医療にかかわる方々に役立つように執筆。日本で初となる患者の声や患者視点の病気の像を患者自身の言葉で伝える教科書を2009年8月15日発刊。全25疾患について、VHO-netのメンバーなどが中心になり原稿を作成し、医師や看護師などが監修し疾患ごとに解説しました。

難病相談支援員教育研修プロジェクト

九州学習会によるプロジェクトで、難病相談・支援センターの相談支援員を対象に、相談支援員自身の心のケア、情報の共有などを目的とする事例検討や教育研修を行っています。

受診ノート作成プロジェクト

関東学習会のプロジェクトとして、患者が日々の記録を記入する受診ノートの作成に取り組んでいます。

■ その他の活動

- ・ 書籍「Together ～みんな一緒に」 - 5年の歩み - 出版。
- ・ 国際医療福祉大学大学院乃木坂スクール講座「患者の声を医療に生かす」にてVHO-netのメンバーが講師として参加。
- ・ 書籍「患者の声を医療に生かす」出版協力。
- ・ スカパー774 医療福祉チャンネル「患者の声を医療に生かす」企画、出演協力。
- ・ 医療福祉チャンネル 第11回・第12回目放映分のDVDを制作。
- ・ 医学教育学会に初めて患者が参加。VHO-netについての発表。
- ・ 「高槻臨床研修研究会」にて、患者による講演と模擬患者（SP）の派遣。

ヘルスケア関連団体ネットワークの会（VHO-net） 活動指針

ヘルスケア関連団体ネットワークの会（以下、VHO-net）は、次のことを目的としています。

- 1．お互いを認め合って、共通の課題に取り組む。
- 2．情報の共有や交流を通して、エンパワメントする場とする。
- 3．互いの悩みや問題、夢を共有し、その改善、達成のために相互協力できることを実施する。
- 4．各地域で横のつながりを持ち、学び合い、各地の実情に合わせた活動を展開する。
また、その中で育まれた知恵や体験を全国の仲間と共有し、創造する。

上記の目的を達するため、また活動する上で、以下のことを大切にしています。

参加者は、ヘルスケア関連団体のリーダーであること。

VHO-netの方針、運営の決定権は世話人会にあり、一人の意見のみで実施されないこと。

VHO-netはみんなで楽しく笑顔で創り合うものであり、積極的に参加すること。

この活動指針は、年に1回検討し、必要に応じて改定する。

2004年6月21日制定
2006年6月26日改定
2008年2月15日改定
2010年3月31日改定

ヘルスケア関連団体ネットワークの会（VHO-net）会則

第1条 名称

本会はヘルスケア関連団体ネットワークの会（英文名：Voluntary Healthcare Organization Network、以下、VHO-net）と称する。

第2条 目的

VHO-netはヘルスケア関連団体に所属するリーダーが、相互に学習・協力・援助することで、より良い保健・医療・福祉を目指し、全ての人により健康で住みやすい社会を創造することを目的とする。

第3条 活動の内容

- 1．目的にそった学習活動や研修
- 2．団体間の情報交換
- 3．目的にそった調査研究
- 4．行政、企業、一般市民、専門職者等社会への啓発および提言
- 5．その他、目的を達成するために必要な活動

第4条 活動の制限

VHO-netは、政治的・宗教的信条に関する活動および営利目的の活動を行わないものとする。

第5条 会員

入会・退会については別途規定し、世話人会で承認する。尚、会員種別については以下の三種とする。

会員は1年ごとに更新手続きをする。

（団体会員）入会の意思を表示するヘルスケア関連団体

（個人会員）会の活動に賛同し、その活動を支援するために入会を希望する個人

（賛助会員）会の活動に賛同し、その活動を支援するために入会を希望する企業や団体

第6条 役員

1. 役員として世話人と監事をおく。役員は別途規定により選ばれる。
2. 役員は10人以上、20人以内とする。
3. 世話人代表は必要がない限り、特に定めない。
4. 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第7条 世話人会

1. 世話人会は世話人と監事によって構成される。
2. 世話人会は会の運営・活動に関して協議し、決定する。
3. 世話人会は定期的を開催する。
4. 世話人会のもとに、各委員会を設け、各委員を決定することができる。

第8条 報告会

年1回報告会を開催する。

第9条 会費

会費規定を別に定める。

会員は会費規定にもとづく会費を納める。

第10条 会計

1. 活動、事務局経費は会費、助成金、寄付金およびその他の収入をもってあたる。
2. 会計年度は1月1日から12月31日までとする。
3. 監事によって監査を受ける。

第11条 事務局

VHO-netの事務局を下記におく。

東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル

ファイザー株式会社 コミュニティー・リレーション部

第12条 会則の変更

本会則の変更は世話人会で決定する。

第13条 会則の施行

本会則は2005年6月1日から施行する。

以上

2004年10月30日	決定
2007年 3月31日	改定
2008年 2月16日	改定
2010年 3月31日	改定

会員登録について

入会に関しては、世話人会で定めた内規に従って、以下の手順で行う。

1．入会対象者

ヘルスケア関連団体ネットワークの会（以下、VHO-net）に会員登録を希望する団体または個人は、活動指針に賛同し、会則に従い、共に前向きな思考で活動を担う人を対象とする。

2．会員登録種別

ヘルスケア関連団体に所属する人は「団体会員」とし、医療関係者などは「個人会員」とする。団体設立準備中の場合は、「個人会員」として登録が可能だが、設立後は団体会員に変更するものとする。

また、会の活動に賛同する企業やヘルスケア関連団体以外の団体は「賛助会員」とする。

3．会員登録に必要な書類

運営委員の推薦を得た団体または個人は、必要書類を揃えて、事務局まで提出する世話人会にて提出された書類をもとに、別途設けた内規によって、承認・非承認を決定する。

入会にあたっては、規定の「入会申請書」を提出し、団体においては必要書類も添付し、提出する

いずれも、運営委員の推薦文を添えて提出するものとする。

以上

2007年7月24日決定

2007年9月28日改定

2008年2月15日改定

2010年2月27日改定

地域学習会運営要項

1. 地域学習会はVHO-net活動指針、会則に基づいて運営を行う。
2. 各地域学習会に、運営委員5名を限度としておく。ただし世話人は含まない。運営委員は世話人会によって承認される。
3. 運営委員は学習会の企画、運営について協議し、世話人会に報告する。運営委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 各地域学習会は年間活動計画・予算を作成し、世話人会の承認を得る。
ただし、学習会の開催日程については、重複を避けるため、事前に事務局に相談の上、決定する。
5. 各地域学習会の年度ごとの予算を考慮して、支援を受けることができる。なお、一部、参加者の自己負担が生じる場合もある。
6. 参加者はVHO-net地域学習会メンバーを基本とするが、運営委員が認めた場合は参加できる。
7. 参加者の交通費の助成は、1団体2名までを原則とする。公共交通機関の運賃を実費精算できる。歩行が困難な人、体調不良な人に限って、タクシーを利用することができる。ただし、タクシーを利用する場合は事前に運営委員の了承を得る。詳細については交通費ガイドラインに準ずる。
8. 運営委員は学習会終了後、議事録を事務局に提出する。
9. 各地域学習会運営委員の連携を強化し、情報共有をするために、年に1度、世話人会が主催する報告会に参加する。

以上

2006年3月31日制定

2006年4月24日改定

2008年2月15日改定

2010年2月27日改定

■ 用語解説

【ヘルスケア関連団体】

ヘルスケアの意味は広く健康に関するケアを示します。

ここで示すヘルスケア関連団体は、疾病、障がいのみこだわりのではなく、はば広く精神、社会に調和がとれるために必要な活動をしている団体も含めており、それは関連という言葉にも同様の意味をこめています。

ただし、物的環境などハード面まで広げるのではなく、人を中心と考えています。また、団体の条件として、非営利があげられます。非営利であれば、法人格の有無、団体の大きさには規定はありません。

ケアはセルフケア、予防、治療に関するケア、相互ケア（ピア・カウンセリングなど仲間同士のケア）、家族介護などさまざまな形と方法等を含みます。健康に関するケアであればどの分野、どの形でも良いと考えます。

上記の考えは、立場を超えて、多くの人理解しあうことでさまざまな健康に関する課題を共有し、新しい解決策を見出せるということが基本となっています。

【ネットワーキング】

広辞苑によれば、ネットワーキングとは、「市民活動・社会福祉活動・エコロジー運動などを行っている市民たちが、自在に結び合って網の目をつくり、共生型のオルタナティブな社会を作ろうとする運動、1980年代に世界各地に広がる」となっています。

当団体も、必要に応じて自由に結び合うことで、新たなヘルスケアに必要なひと・もの・情報・システムなどが生まれ、それを共有し、有効活用できると考えています。

ひとつの団体ができることには限界があっても、それぞれの歴史、得意分野を持つ団体が協働すれば、幅と深みのある活動を展開できると考えているからです。

個人・団体同士は上下の関係はなく、主体的な横のつながりです。また、しばりのあるつながりではなく、緩やかで必要に応じて機能的に動けるつながりを目指します。

【VHO-net】

VHO-netはVoluntary Healthcare Organization Networkの略です。

VHO-netはヘルスケア関連団体ネットワークの会のホームページの名称でもあり、ヘルスケア関連団体に対する理解、認識を深めていただくことを目的として運営しています。ヘルスケア関連のさまざまな団体の紹介をはじめ、国内外の情報、講演会やワークショップの概要などを提供しています。

(ホームページアドレス) <http://www.vho-net.org>

新ロゴ



【リーダー】

VHO-netでのリーダーとは非営利のヘルスケア関連団体のリーダーを示しますが、必ずしも代表である必要はありません。各団体の中である程度の責任を持ち、リーダーシップをとる役割を持つ人を示します。当会で得たメリットを各団体にもどって活かすことができる人です。

【エンパワメント】

VHO-netでのエンパワメントとは、個々人の主体的な表現であり、社会との関係を見直す思想でもあります。自らの内部にある潜在的パワーを引き出します。自らの尊厳を回復し、意見を言い、自己決定、自己選択、権利主張、自己実現を目指すよう、自分の力を出すことです。

【世話人・世話人会】

世話人は会員の互選によって選出され、VHO-netの企画・運営を務める役割を持ちま

す。

世話人による会議を世話人会と称し、VHO-netの企画・運営の責任を持ちます。世話人会は基本的に毎月、さらに必要に応じて開催し、会の活動の方針を決定します。会則の決定も世話人会が責任を持ちます。世話人会は特別な必要がない限りは世話人代表をおきません。その理由は当会・会員はみなそれぞれの所属団体では何らかのリーダーであり、VHO-netの目的は横のつながりを目指すネットワークだからです。ただし、もしどうしても公的な場などでやむを得ず代表が必要な場合は臨時に代表をたてることもあります。恒常的ではありません。

【委員会】

プロジェクト・目的別に設置され、ワークショップ準備委員会、地域学習会運営委員会、編集委員会、ウェブサイト委員会などがあります。各委員会には世話人が入っていることが原則です。

【ワークショップ】

会員が集まり、課題を共に考える会です。受身ではなく、全員参加型の会であり、グループワークを主軸として、テーマについて話し合います。課題を共有する、解決策を考えることで、リーダーの相互理解、エンパワメントを目指します。また、討議したことから、共に具体的な活動を展開します。

【地域学習会】

地域ごとに会員が集まり、課題を共に考える会です。ワークショップ同様、全員参加型の会であり、会員がそれぞれに地域に則したテーマや参加メンバーの意見を集約してテーマを決めて学習会を開催します。それぞれの地域学習会で話し合われた内容は、年に一度全国で集まって報告会を開催します。

【Together】

Togetherは、ヘルスケア関連団体のリーダーおよび、それぞれの団体が共に歩もう、という意味がこめられています。孤独になりがちなリーダーは一人ではない、そして疾病や障がいに悩むのはあなた一人ではない、というメッセージをこめています。ワークショップの報告集などの名称にも使用しています。

【まねきねこ】

VHO-netのマスコットキャラクターは「まねきねこ」です。人を招き、ネットワークを広げようという意味がこめられています。

ヘルスケア関連団体のネットワーキングづくりを支援する情報誌『まねきねこ』のキャラクターのねこと異なります。

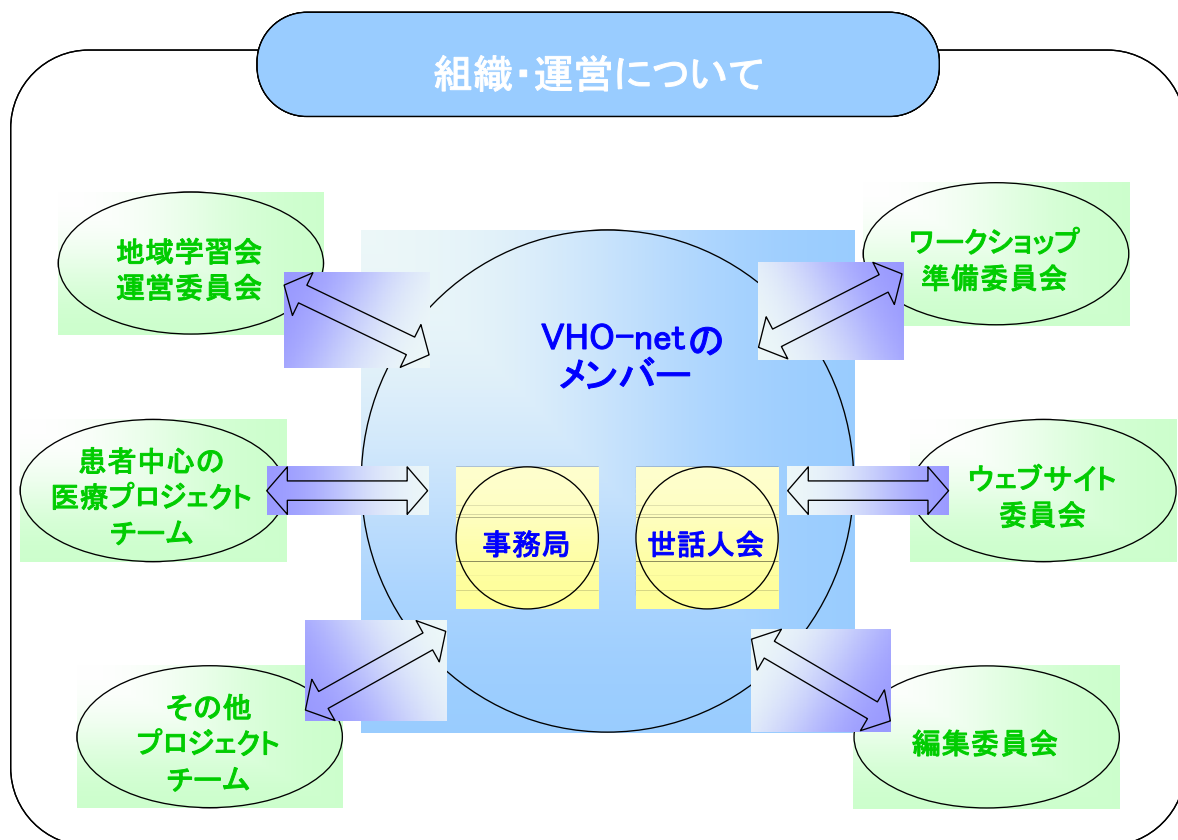
新『VHO-net』のまねきねこ



ファイザー株式会社が発行している
情報誌『まねきねこ』のねこ（まねこ・きねこ）



VHO-net 組織・運営について



2008年4月16日改定
2010年2月27日改定



ヘルスケア関連団体ネットワークの会

事務局：〒151-8589 東京都渋谷区代々木 3-22-7
新宿文化クイントビル
ファイザー株式会社 コミュニティー・リレーション部内
TEL: 03-5309-6720 FAX: 03-5309-9004

OOM14A007